

各球団の総合満足度スコア

1. 各球団の総合満足度スコア平均値と平均値に基づくランキング

2017年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	広島	73.82	15.52
2位	ソフトバンク	70.84	15.01
3位	日本ハム	68.31	13.74
4位	横浜DeNA	64.84	16.21
5位	ロッテ	63.41	16.05
6位	楽天	61.91	15.17
7位	ヤクルト	61.05	15.18
8位	阪神	58.60	16.72
9位	巨人	57.94	17.13
10位	西武	57.55	17.31
11位	オリックス	50.18	14.69
12位	中日	43.41	18.80

2016年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	ソフトバンク	72.59	16.32
2位	日本ハム	66.45	15.09
3位	ロッテ	63.51	16.54
4位	ヤクルト	63.05	14.74
5位	楽天	62.92	14.79
6位	広島	62.47	13.90
7位	西武	61.37	16.25
8位	阪神	60.03	16.24
9位	巨人	59.42	15.86
10位	オリックス	58.43	17.09
11位	横浜DeNA	57.99	15.31
12位	中日	48.44	17.12

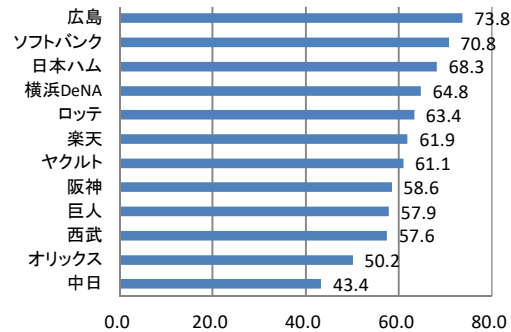
2015年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	広島	71.01	14.11
2位	日本ハム	69.97	14.54
3位	ソフトバンク	69.71	16.68
4位	オリックス	64.86	15.65
5位	阪神	62.06	16.21
6位	楽天	61.74	14.47
7位	ロッテ	58.37	16.08
8位	ヤクルト	57.61	15.07
9位	巨人	57.58	16.45
10位	西武	55.16	16.88
11位	横浜DeNA	53.73	16.22
12位	中日	50.55	16.21

2014年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	楽天	66.62	16.23
2位	ロッテ	65.57	14.11
3位	広島	65.20	14.91
4位	ソフトバンク	64.51	14.66
5位	巨人	63.47	14.13
6位	日本ハム	62.61	14.25
7位	西武	62.17	13.98
8位	阪神	58.53	17.20
9位	ヤクルト	55.06	14.52
10位	横浜DeNA	53.63	17.33
11位	中日	53.41	16.11
12位	オリックス	51.30	17.97

2017年1月下旬調査における各球団の総合満足度スコア平均値のグラフ

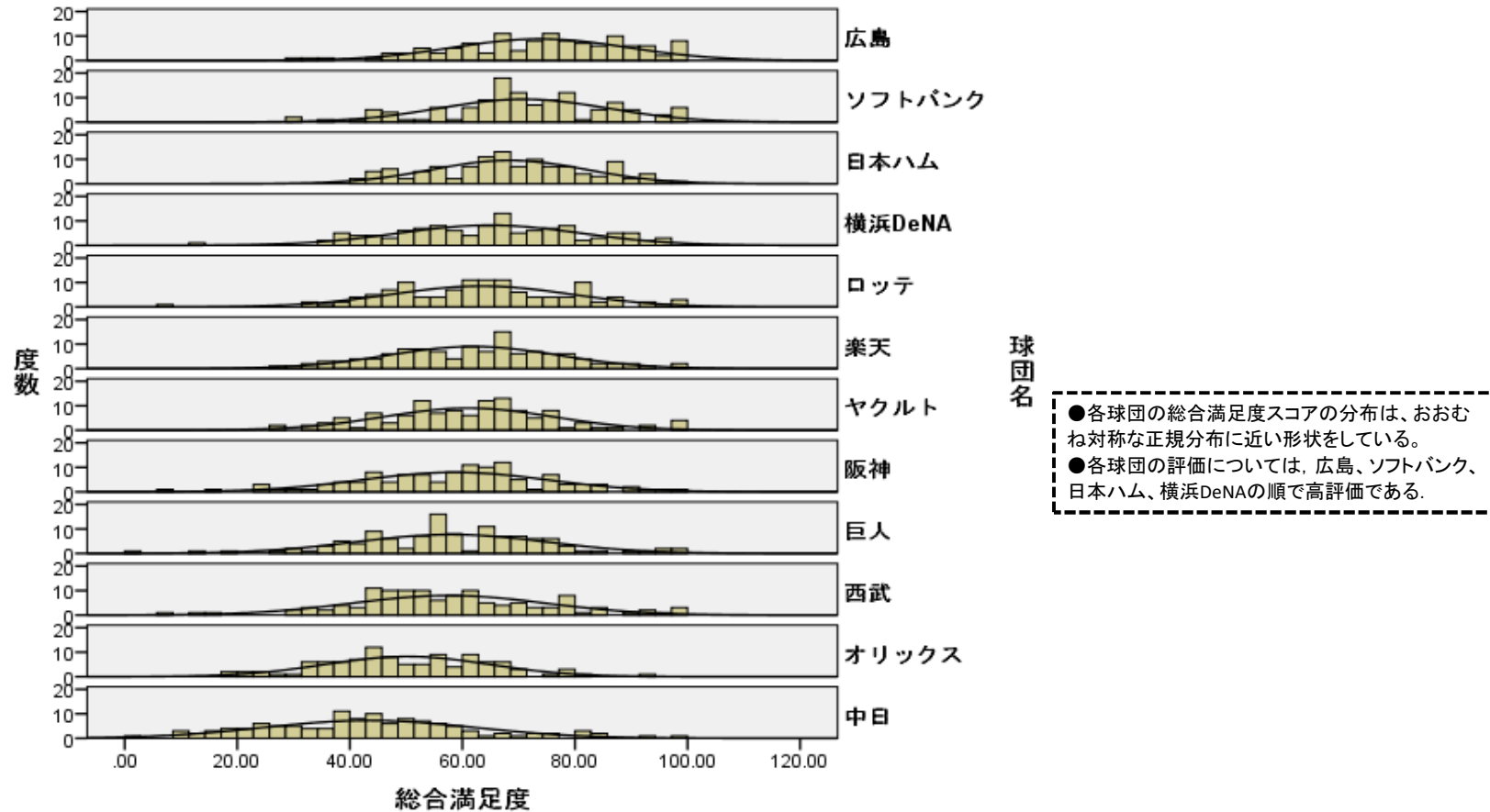


2つの球団のスコア平均値の差の検定: 5.0%最小有意差(l.s.d)の目安

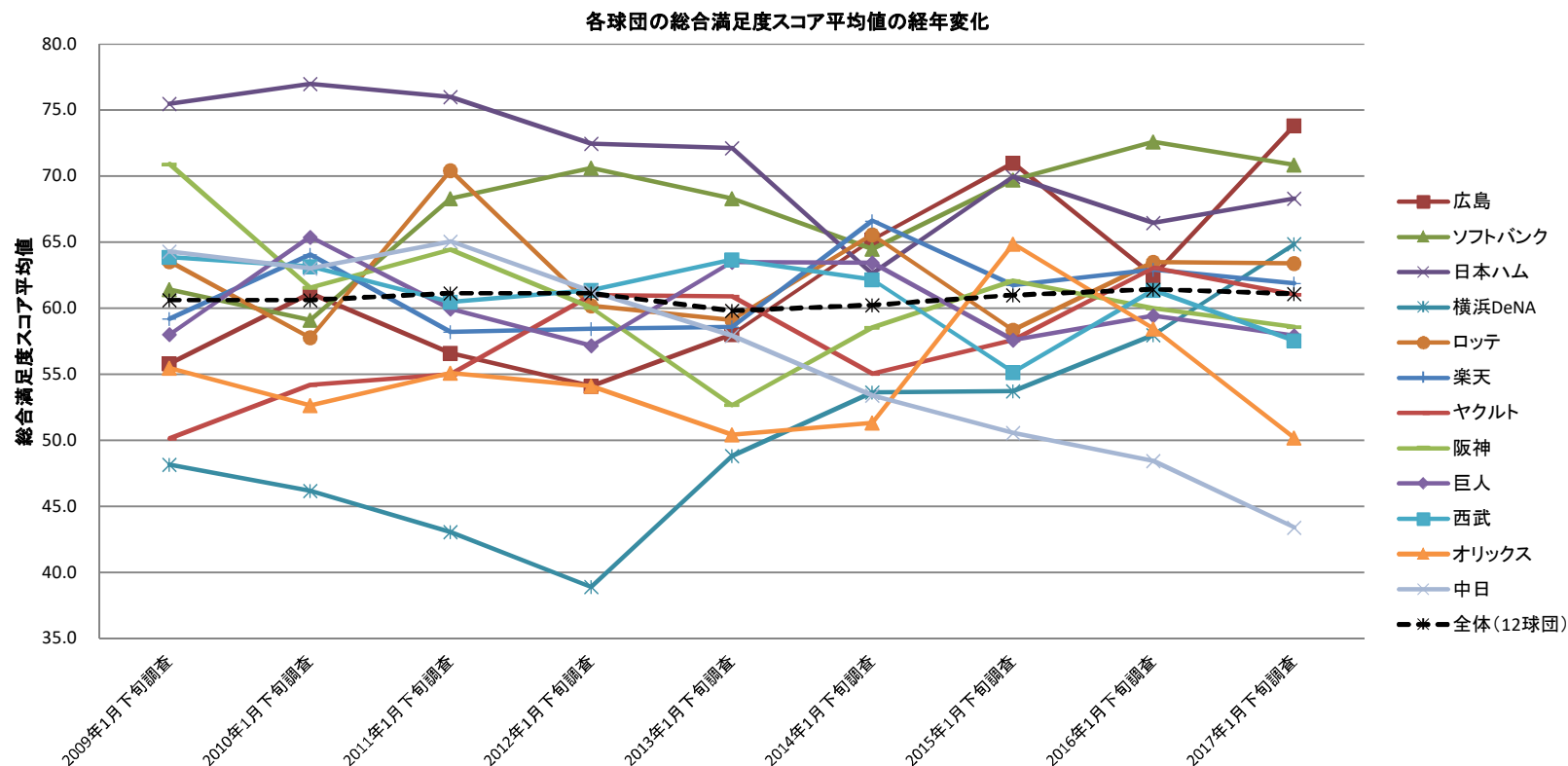
$l.s.d = 1.96 * \sqrt{(2 * 15.0^2 / 120)} = 3.80$
 ただし、スコアが正規分布に従い、各球団からのサンプリングが独立で、それぞれのサンプル数はn=120、標準偏差はσ=15.0とした場合の値である。

- 総合満足度スコアは、共分散構造分析モデルから求まる「総合満足度の潜在変数スコア」を標準化したものである。
- 具体的には、「総合的な満足度」と「総合的に見た場合の理想への近さ」の2項目の評価に重きを置き、さらに「チーム成績」「チーム選手」「球場」「ファンサービス・地域貢献」「ユニホーム・ロゴ」等の項目の総合満足度への影響度を考慮しながら、各項目の評価の加重平均として算出している。
- これらの項目のウェイト(因子スコア・ウェイト)は、共分散構造分析モデルにもとづき求めている。

2. 各球団の総合満足度スコアの分布 (2017年1月下旬調査)



3. 各球団の総合満足度スコア平均値の経年変化



■**広島**： 2017年1月下旬調査では、2年ぶり2回目の1位(73.8)となった。2016年シーズンでは、25年ぶりのリーグ優勝を成し遂げて、鈴木誠也選手の活躍を評した「神ってる」など、戦いざまなどかなり注目された。2009年への新球場へ移転をきっかけにサービスが劇的に向上し、若手選手の台頭から、「カーブ女子」と呼ばれる女性ファンも急増し話題となった。近年は、チーム力も向上し、高水準で総合満足度1位となった。

■**ソフトバンク**： 総合満足度2位(70.8)となった2016年シーズンでは、リーグ優勝を逃したが、チーム・選手の魅力、ファンサービス・地域貢献などが高い評価であり、高水準を維持している。総合的にバランスのとれたチームである。

■**日本ハム**： 2017年1月下旬調査では3位(68.3)となった。2006年シーズンは、チーム成績は日本一、大谷選手の大活躍でもあり、もっと高い満足度評価が期待されたよい状態であった。広島、ソフトバンクと比較すると「ファンサービス・地域貢献」がやや低い水準となり、総合で3位となったと考えられる。ファンサービス・地域活動の活性度が高い球団ではあるが、ホーム球場の運営などから、やや限界に達していることも一因と推察される。

■**横浜DeNA**： 2017年1月下旬調査では4位(64.8)となった。近年のファンサービス、球場でのサービスの向上、さらに、2016年シーズンはチーム成績もリーグ3位でCSに進出したことから満足度が上昇した。筒香選手の活躍も大きく影響していると考えられる。

■**中日**： 2017年1月調査でも、総合満足度スコアの順位が12位(43.4)となってしまった。チーム成績もリーグ最下位となり、チーム・選手の魅力度の評価も低下している。ファンサービス・地域貢献に対する評価も低い。

4. 総合満足度スコアと平均観客数の散布図 (9年分の調査データと直近のシーズンのホーム球場の平均観客数を使用)

ホーム球場の平均観客数
出典:「2009-2017 ベースボール・レコード・ブック」、ベースボール・マガジン社

球団ごとの群が存在するが、おおむね、総合満足度スコアと平均観客数の間には正の相関がある。相関係数は $r=0.303$ (1%有意)となった。

